

みんなで力を合わせた「おやこキャンプ」、
大人も子どもたちも笑顔いっぱい、そして
ちょっとスリルを体験した楽しいアウトドアの一日でした。

父と子が、しっかり命綱で結ばれた川下り、父親でなければ出来ない大胆な川遊びは子どもたちの強い心の成長の手助けになったことに間違いありません。

川から上がるとお待ちかねの「かき氷」、子どもたちが喜んで3回も4回もおかわりに来るのでお腹の冷えがちょっと心配になりました。

ことしは園庭の「ヤマモモ」がたくさん実をつけてくれましたので、6キロ煮詰めてシロップを作りました。シロップをとった後の実は、子どもたちのデザートになりました。毎日お弁当のふたを持ってヤマモモの実をください、と声をかけてきます。

真っ黒に焦げた飯盒炊爨のごはん、ふだん味わえないおこげも美味しかったです。(ちょっと一言、薪で炊くときには、「始めは強い火、沸騰したら中火、そしてだんだん弱火」にすると、おこげが薄くなりうまく炊けますよ)

暑さの中、汗をたらたら流して、ごはん作り、カレー作りをしてくださったお父さん方、本当に大変でした。有難うございました。お蔭で楽しい夕食になりました。

夕食が終わると大急ぎで片づけて移動・・・委員の父さん方が昨日から当日の午前中にかけて準備してくださったキャンプファイヤーの薪が恰好よく組まれていました。

あみかちゃんのお父さんのギターに合わせ、キャンプソングの響く中、河原はだんだん夕闇に包まれていきました。

いよいよ点火の儀式、いにしえの人々を偲んでヒノキとスギの木で手作りした「火起し機」はマッチを使いません。さあ！火起こしが始まりました。提案した会長の大井さんは必至で木と木の道具を使ってこすり始めました。3分、5分、10分・・・。

みんな息をのんで見守る中、煙が見え始め、周りの期待は高まります。

「がんばれ！がんばれ！」「燃えろ！燃えろ！ キャンプファイヤー！」・・・励ましの掛け声の音頭が繰り返されます。しかし、それでも火が灯りませんでした。限られた時間を気にした正巳先生がついに断念を宣言・・・、

その時です、若い委員のお父さん、坂本さんがとっさに諦めかけた火起こし機を手にとると力任せにこすり始めたのです。あ、かすかに赤い火が見えたのです。まるで難産の

末、赤ん坊が生まれたような小さな小さな火に静かに、静かに息を吹きかけることしばし、ついに点火に成功！組まれた薪は赤々と燃え始めました。

横山さんご夫妻と、太鼓のメンバーの方々も応援してくださり、大井川の河原はたちまちサバンの大地に変わり太鼓の響きがあたりに木霊しました。

父から子へのメッセージ、まじめに原稿が用意され、父親のわが子への思いは、幼い心に深く届いたことでしょう。中にはご自分の生き方をわが子に伝えようとする格調高い言葉もありました。今すべてを理解することは出来なくても、言葉は「言霊」と言われるように、見えない力で心に伝えられます。

そして、父と子で川に流し^た灯籠に、それぞれ何を思い、何を祈ったことでしょうか。その神秘なともし火は幼い心深く良き思いでとなって残ることでしょう。

(灯籠は正巳先生の手作り、木を細くするところから時間かけて作り上げました)

PTA委員のお父様方始め父母の皆様のご協力有難うございました。

.....